

## 第10章 調査区Ⅲ

### 1. 概要

調査区Ⅲは、西側洞口外の底部下に設定した発掘区で、発掘面積は約12㎡である。現在、この地点は非常に乾燥しており、雨水の流入もほとんどなく、かつては風葬墓として利用されていたようである。

調査区近辺の堆積層は相当程度攪乱されており、J23・24北壁セクション面よりも南側では、XIID層以上が攪乱でほぼ完全に失われていた。地表下約1.5mまで掘削したが、まだ基盤には到達していない。表土直下のフーストーン層（FS層）より下位にXI層～XV層まで細別層位も含めて9枚の堆積層を確認した。調査区Ⅲの堆積層は層相、含有物とも調査区Ⅰのそれとよく類似しており、両者は一連の堆積物と考えて矛盾ない。最下部のXV層は石灰岩礫を多く含む褐色の粘質土からなり、シカ類化石が比較的多く出土した。

### 2. 層序

全体的な地層の堆積状況は調査区Ⅰとほぼ同様であり、FS層下に2枚の炭化物層（XIIB、XIID層）を挟む褐色土層の堆積が見られた。XII～XIV層にはカタツムリやカワナナ等が含まれており、XIID層では甲殻類の遺骸（カニの鉋脚）や貝器を含む海産貝類も出土した。XIII層は石灰岩礫を多く含んだ落盤層と考えられ、シカ類化石が少量出土した。K23区側で厚く、J23・24北壁セクションでは確認できない。XIV層からは赤色土集中部が3箇所（SX05、06、10）検出されているが、

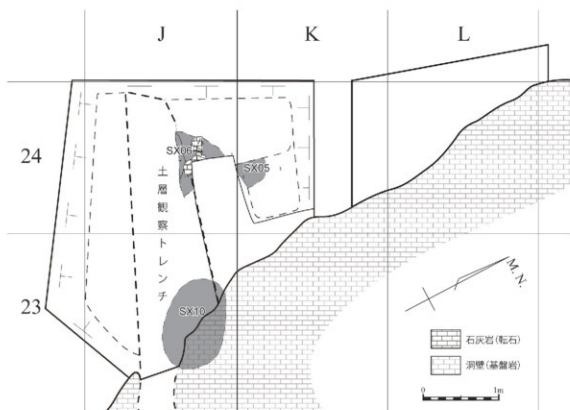


図10-1 調査区Ⅲの遺構配置図

第10章 調査区Ⅲ

表 10-1 調査区Ⅲの層序

層名	色調	記	載	構成	人工・人為遺物	動物遺骸	年代(層年)
表土	灰黄褐色土 (10YR6/2)						
					土器、石器	人骨、貝類	
FN層	フローストーン					陸産貝類	
							15500～ 14000年前
N1層	黄褐色土 (10YR8/6)					陸産貝類	
						淡水貝類 甲殻類	
X1A層	黄褐色土 (10YR6/6)						
X1B層	灰黄褐色土 (10YR6/2)					同上	18500年前
X1C層	濃い黄褐色土 (10YR4/4)					同上	
X1D層	灰黄褐色土 (10YR5/2)				貝類	陸産貝 淡水貝類 甲殻類	23000～ 22500年前
X1E層	褐色土 (10YR4/4)					陸産貝(シカ類)	34000年前
X1V層	橙 (5YR6/8)～ 黄褐色 (10YR8/6)				SX05 SX06	陸産貝類	37500～ 31000年前
XVA層	褐色土 (10YR4/4)					陸産貝類 獣骨(シカ類)	
XVB層	褐色土 (10YR4/4)					陸産貝類 獣骨(シカ類)	39000～ 38500年前

各層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色図2007年版」に基づく。

表 10-2 調査区Ⅲの放射性炭素年代値

通番	Lab no.	試料名	調査区	層	種類	$\delta^{13}C(‰)$	測定年代	年代値	1 $\sigma$ (新暦21年)	2 $\sigma$ (新暦21年)
1	PLD-21761	SAS252	■	X1B層	炭化材	-27.23±0.16	12,058±35	12,440±35	11961-11843 cal BC (95.4%)	12070-11612 cal BC (95.4%)
2	PLD-21760	SAS251	■	X1B層	陸産貝類(カタツムリ)	-7.96±0.20	12,948±26	12,965±25	12654-12429 cal BC (95.4%)	12720-12349 cal BC (95.4%)
3	PLD-21760	SAS264	■	X1B層	炭化材	-27.56±0.22	15,062±42	15,093±40	14482-14326 cal BC (95.4%)	14520-14182 cal BC (95.4%)
4	PLD-24982	SAS011	■	X1D層	炭化材	-29.43±0.19	19,867±54	19,870±50	20062-20053 cal BC (95.4%)	20106-20063 cal BC (95.4%)
5	PLD-24988	SAS012	■	X1D層	炭化材	-27.60±0.14	19,130±57	19,130±40	21197-20953 cal BC (95.4%)	21209-20876 cal BC (95.4%)
6	PLD-21628	No.2	■	X1層(上部)X03	陸産貝類(カタツムリ)	-10.56±0.23	27,326±93	27,380±90	29379-29199 cal BC (95.4%)	29484-29119 cal BC (95.4%)
7	PLD-21628	SAS471	■	X1層(X1D)	炭化材	-23.41±0.17	28,082±105	28,080±110	31999-30953 cal BC (95.4%)	32049-30699 cal BC (95.4%)
8	PLD-21760	SAS282	■	X1層	炭化材	-26.84±0.16	28,999±105	28,990±120	31382-30912 cal BC (95.4%)	31424-30836 cal BC (95.4%)
9	PLD-21760	SAS276	■	X1層	炭化材	-27.57±0.18	30,063±117	30,040±120	32294-32019 cal BC (95.4%)	32350-31991 cal BC (95.4%)
10	PLD-21628	SAS478	■	X06(XV層下部)	炭化材	-15.71±0.25	30,373±121	30,270±120	32490-32173 cal BC (95.4%)	32643-32041 cal BC (95.4%)
11	PLD-21628	No.3	■	X06(XV層下部)	炭化材	-25.73±0.27	31,043±140	31,040±150	33529-33009 cal BC (95.4%)	33603-32618 cal BC (95.4%)
12	PLD-21628	SAS000	■	XV層	陸産貝類(カタツムリ)	-9.64±0.22	34,367±153	34,183±150	38051-38066 cal BC (95.4%)	37953-38108 cal BC (95.4%)

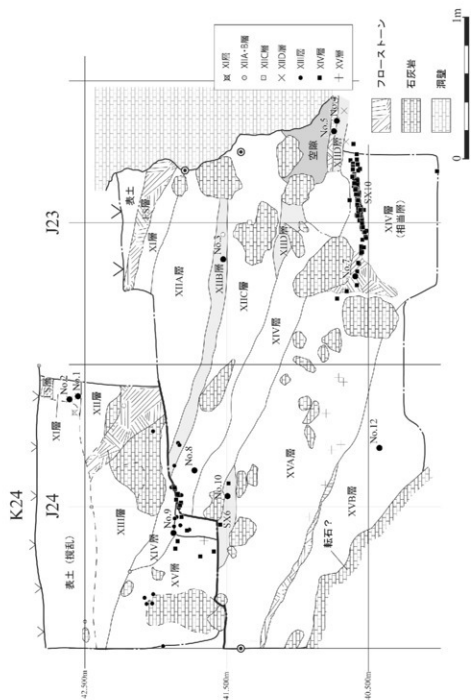


図 10-2 調査区Ⅲ J23・24 区北壁セクション図および出土遺物ドットマップ図 (立面)  
 図上は K24 区北壁セクション図を合成。図中の番号は表 10-2 の番号に対応する。



図 10-3 調査区Ⅲの調査状況 (左) と J23・24 北壁セクション写真 (右)

## 第10章 調査区Ⅲ

遺物は非常に少ない。さらに下位の XV 層からは、シカ類化石が比較的多く検出されている。以上のように調査区Ⅲの発掘によって、調査区Ⅰの旧石器時代（後期更新世）の堆積層が西側洞口外まで連続していることが確認できた。なお、岩底ラインより外側（23 列より西側）では堆積環境が異なるためか、動物遺骸等の保存状態は不良であった。

放射性炭素年代測定の結果、XI 層からは約 15500 ～ 14000 年前、XIIB 層からは約 18500 年前、XIID 層からは約 23000 ～ 22500 年前、XIII・XIV 層からは約 37500 ～ 31000 年前、XV 層からは約 38500 年前の年代値が得られている。このことから、XIID 層が調査区ⅠのⅡ-2 層に、XIIA ～ XIIIC 層が調査区ⅠのⅡ-1 層に、XI 層が調査区ⅠのⅠ層にそれぞれ対比できるものと考えられる。XIID 層と XIV 層との間には相当の年代的隔たりがあるが、その解釈については今後の課題である。

やや特殊な状況として、J23 区では XIID 層の下位に XIV 層類似の褐色土層が厚く堆積しており（図 10-2 の XIV 層（相当層）部分）、現在のところ、明確に XV 層と判断できる堆積層が確認できていない。局所的な現象と思われるが、今後の検討を要する点である。

### 3. 遺構

調査区Ⅲでは赤色土・炭化物集中部 3 箇所を確認した。SX05 は K24 区の XIV 層上部、SX06 は J24 区の XIV 層下部、SX10 は J23 区の XIV 層（相当層）で検出された。SX05 と SX06 は、薄い間層を挟んで上下に重複する。いずれも堆積層の一部がわずかに赤化し、赤色・黒色の土壌粒や炭化物が周囲に分布するという程度のものであるが、SX06 ではやや赤化の程度が強かった。SX06 については、磁化研究を実施した結果、被熱の可能性が示されており、火址の可能性が考えられる（分析・考察編 V 参照）。これらの周囲では遺物の出土は乏しく、わずかに SX06 の周囲からイノシシの歯 1 点が得られたが（図 10-8：1）、この周囲では攪乱が著しく、確実に SX06 に伴うかは定かでない。なお、SX10 についてはトレンチ内で検出されたため面的に精査することが難しく、赤色・黒色土壌粒および炭化物の座標を記録するに留めた（図 10-2 にドットマップを示す）。

### 4. 遺物

調査区Ⅲからは、動物遺骸や炭化物等の遺物が多く出土したが、その多くは甲殻類、淡水貝類、陸産貝類で、獣骨や人工遺物は乏しい。XII 層からは貝器（図 8-26:25）を含む海産貝類や魚骨、骨片が少量出土したほか、上述のように XIV 層下部で検出された SX06 の周囲からは、イノシシの歯 1 点（図 10-8：1）が出土した。XIII、XV 層からは保存状態の良い下顎骨を含むシカ類化石が出土した。このほか、攪乱層中から石英が 1 点得られている（図 10-8：2）ので、合わせて図示しておく。

表 10-3 調査区Ⅲ検出遺構リスト

遺構番号	調査区	層	検出年月日	種別	規模	放射性炭素年代	備考
SX05	Ⅲ	XIV層上部	20120817	赤色土・炭化物集中部	L0.57m×(W0.34m)	27380 <sup>14</sup> C BP (PLD-23428)	
SX06	Ⅲ	XIV層下部	20120904	赤色土・炭化物集中部	L0.83×(W0.53m)	30273 <sup>14</sup> C BP (PLD-23291) 33043 <sup>14</sup> C BP (PLD-23290)	磁化研究実施
SX10	Ⅲ	XIV層	20120919	赤色土・炭化物集中部	L1.1m×(W0.70m)	28682 <sup>14</sup> C BP (PLD-23428)	

※「規模」の項目の( )は調査区内において確認できた規模を示す。Lは長さ、Wは幅。

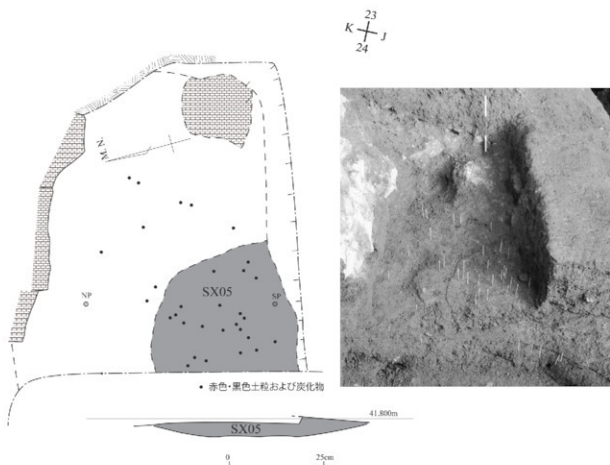


図 10-4 SX05 平面・断面図 (左) と検出状況写真 (右)  
竹串は赤色・黒色の土壌粒または炭化物を示す。

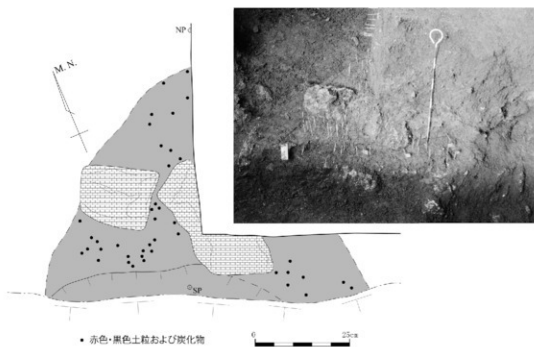


図 10-5 SX06 平面図 (左) と検出状況写真 (右)  
竹串は赤色・黒色の土壌粒または炭化物を示す。断面は図 10-2 参照。



図10-6 SX10 検出状況写真(西より)  
竹串は赤色・黒色の土壌粒または炭化物を示す。

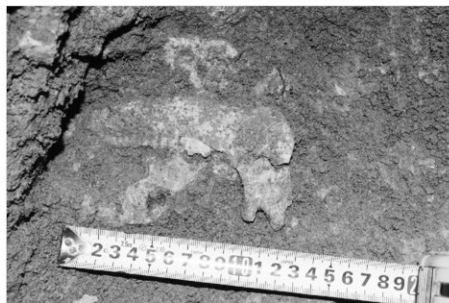


図10-7 XV層の獣骨(シカ類下顎骨)出土状況写真

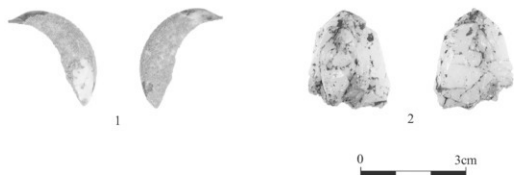


図10-8 SX06出土のイノシシ歯(左)と攪乱層出土の石英(右)